

国立病院機構熊本医療センター

No.182



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

平成24年度 第1回開放型病院運営協議会が開催されました

—平成24年度 第1回開放型病院連絡会の日程と内容が決まりました—

国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成24年7月3日に当院会議室で開催されました。協議会には委員として熊本市医師会より医師会長の福島敬祐先生（委員長）、副会長の加来 裕先生、担当理事の田中英一先生がご出席いただき、当院より河野院長、野村副院長、高橋副院長、片渕統括診療部長が出席いたしました。河野院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に引き続き議事に移りました。先ず、事務局より開放型病院利用状況、開放型病院登録医師数、訪問医師数、共同指導数、前回の平成23年度第2回開放型病院連絡会（通算32回、平成24年2月25日開催）の参加者数、くまびょうニュース発刊状況について報告が行われました。続いて平成24年度第1回開放型病院連絡会の開催について協議が行われ、平成24年9月4日（火）午後7時より、くまもと県民交流館（10階パレアホール）で開催することが決定しました。パレアホールでの開放型病院連絡会総会では、グリーンレ

ザーを使った前立腺肥大症の治療について症例呈示と地域連携室からのお知らせが行われます。その後、7階鶴屋ホールで意見交換会を予定いたしております。多数の先生方、スタッフ皆様にご参加頂きますようお願い申し上げます。（副院長 野村 一俊）



開放型病院運営協議会での福島先生のご挨拶

平成24年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成24年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が7月18日（水）午後7時より、熊本県歯科医師会館会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは清村正弥会長、藤波好文副会長、渡辺猛士専務理事、宮本格尚医療管理理事、高橋禎医療管理委員長が出席いただき、当院より河野院長、野村副院長、片渕総括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

清村会長、河野院長からあいさつの後、議事に入りました。まず、当院の歯科紹介率の議題では中島部長から、紹介率は平成24年度が院外32%となっていること、また新患者や院内紹介数が増加していることが報告されました。

当院の歯科救急医療についての議題では、原田医長より今年上半期は105件の歯科口腔外科救急症例があり今までで最も多いペースであること、外傷が増加傾向であることが示されました。

次に救急蘇生講習会について、今年度の開催が11月8日（木）であることを確認し、直前の混乱がないように1週間前までに参加者の確定を行うことを再度、申し合わせました。

続いて河野院長から、平成24年度第1回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が9月4日（火）午後7時から、くまもと県民交流会館にて開催されることが案内されました。

その他として藤波副会長から、周術期口腔機能管理が歯科の保険点数として新設されたことが紹介され、医科にも周知徹底され医科歯科連携を一層進めていきたいとのお話がありました。また歯科医師会側からメディカルスタッフ向けの口腔ケア研修会の今年度の開催についての要望があり、今後協議していくことを確認致しました。最後に障害者歯科治療を今後も継続して欲しいとの要望があり、閉会となりました。

（歯科口腔外科部長 中島 健）



「忙中閑あり！」

社会福祉法人郁栄会
医療法人社団郁栄会

理事長 伊東山 洋一

＜足を向けては寝れない！＞熊本医療センターに対する私の今の素直な気持ちです。熊本医療センターが機能停止すれば熊本県北の医療が崩壊するのは明らかです。いつもやっかいな患者さんを引き受けて頂いて感謝しております。現在、特に長男＜剛＞、長女＜瑠美＞が研修でお世話になっており、自分が働いたことはないのですが、非常に身近な病院として親近感を抱いております。平成15年7月に北部脳神経外科・神経内科を開設、その後、介護老人保健施設かなこぎ苑、グループホームサンライズ楠野、小規模多機能型居宅介護事業所シニアクラブ菱形、

特別養護老人ホームサンビレッジ高平台（社会福祉法人郁栄会）などを開設し、医療と介護の連携を図って参りました。本年7月から北部脳神経外科・神経内科は10年目に突入します。5月には新患数が27,000名を突破、昨年1年間の外来のべ患者総数29,620（新患2,452）、入院患者数254、入院のべ患者総数6,307（1日平均入院患者数17.3、稼働率91%）、うち脳梗塞167（65.7%）でした。検査はCT 1,791、MRI 3,712、X線一般撮影 3,101、エコー、ホルター心電図 1,043、総数9,647件でした。年中無休で外来をあけておりますが、こういう医療が出来るのも一重に熊本医療センターのバックアップがある御蔭だと感謝しております。職員の皆様、毎日毎日救急の連続で大変お忙しいことと思いますが、医療従事者が疲れ果ててしまえば、いい医療はできません。私も合唱（郁栄会かなこぎ混成合唱団）、お茶（表千家）などで気分転換をはかっております。末永く宜しくお願い申し上げます。



臨床薬理セミナーが開催されました

7月1日当院地域医療研修センターにおいて、熊本県医師会、熊本市医師会、熊本県病院薬剤師会、熊本医療センター共催による臨床薬理セミナーが「精神科疾患と薬物治療－精神医療の動向と患者に応じた薬の使用法－」というテーマで開催され、131名の方々が参加されました。

最初の講義では熊本医療センター精神科部長 渡邊健次郎先生に座長を務めていただき「精神科疾患と薬物治療」というテーマで国立病院機構菊池病院臨床研究部長の木村武実先生に高齢者で注意すべき向精神薬による副作用と相互作用、高齢者で回避することが望ましい薬剤および認知症疾患に随伴する周辺症状（BPSD）に対する薬物治療の戦略について、実際の症例をもとに抗精神病薬の特性の観点からわかりやすく解説していただきました。

二つ目の講義では熊本医療センター外来化学療法センター長 清川哲志先生に座長を務めていただき「アルコール依存と薬物療法」というテーマで、肥前精神医療センターの杠岳文先生にアルコール依存症状に対する薬物治療と、またアルコール離脱症状に対する薬物療法と飲酒行動の改善のための薬物治療についての

2点から実例やガイドラインを交えて解説していただき、さらにBrief interventionなど薬剤師でも介入することが出来るような観点の話まで幅広く講演していただきました。特にBrief interventionの話では今まで持っていたアルコール依存症に対する偏見を見直す機会となり、今後の対応に活かせることを学べたため非常に感銘を受けました。

最後の講義では熊本大学医学部附属病院薬剤部教授 斎藤秀之先生に座長を務めていただき「妊婦と薬物～特に精神科使用薬剤～」というテーマで、虎の門病院薬剤部長の林昌洋先生に妊婦・授乳婦服薬カウンセリングといった新しい試みを始めとして、自然発生する流産・奇形の発生率、妊娠中の服用薬の胎児への影響等の基礎知識に至るまで多岐にわたり分かりやすく講演していただきました。妊婦に使用できる薬剤の知識を獲得し、妊婦・授乳婦に使用できる薬剤について興味を持つことができました。また普段聞くことが出来ない話ということもあり、全ての話が新鮮でおもしろく、聴講者の方々も真剣に話に聞き入っていたのがとても印象的で非常に有意義な講演でした。

（薬剤科 木村 修徳）

施設紹介

医療安全管理室



高橋副院長と医療安全管理室スタッフ

医療安全管理室は、この4月に同じ3階にある現高橋副院長室から窓のある部屋に移動しました。今度の部屋は窓が大きく明るくて、外の緑を見ながら仕事をしています。

医療安全管理室長は、4月河野先生の院長就任にともない高橋副院長が後任となりました。また構成するメンバーは吉田感染管理認定看護師、益田感染管理認定看護師、香月皮膚排泄ケア認定看護師、矢津田救急看護認定看護師です。それぞれの認定看護師とは、感染管理、褥瘡防止とケア、クリティカルケアなど分担して仕事をしています。この分野の質の向上を図っていくことで医療安全の向上にもつながっています。また同じ部屋で机を並べている有馬教育研修係長とは、医療安全教育や研修で協働しています。

医療安全管理室の最も重要な仕事は、些細なことから重要なことまでさまざまなインシデントレポートを収集し、対策を行って小さな芽を摘んでいくことです。昨年度は、949件のIRが報告されました。その中で多かったものは、転倒・転落、カテーテル管理、薬剤関連です。それらの事例と対策はさまざまな会議やマイウェブを通して院内で周知しています。これらのインシデントに対してひとつひとつ丁寧に対策を行い周知することが、重大な事故の減少につながると考えています。



認定看護師の業務風景

また医療安全研修会では、今までに当院で経験した重要事例の周知も行っています。今までに経験した重大事故を二度と繰り返さないように計画しているものです。院外の病院のかたにも公開する医療安全研修会もありますので、是非御参加ください。

平成23年度医療安全研修会一覧

医療安全研修会

- 第1回 薬物事故の防止について
全職員（参加数：556名/参加率65.0%）
- 第2回 医療接遇
・あいさつ、身だしなみ、電話対応
・クレーム対応
全職員（参加数：723名/参加率71.9%）
- 第3回 災害医療
・災害発生時の対応・DMAT活動
全職員（参加数：563名/参加率60.3%）
- 第4回 輸血をもっと知ろう
・血液製剤の適正使用
・輸血の副作用・輸血の実際
全職員（参加数：509名/参加率62.1%）
- 第5回 知って得する放射線情報
・安全なMRI検査
・安全な放射線管理と被ばく
全職員（参加数：595名/参加率72.4%）
- 第6回 腓骨神経麻痺の予防ケア
医師・理学療法士・看護師対象
（参加数：75名/参加率9.9%）
- 第7回 輸血の研修会
・当院の輸血事故事例より
・輸血オーダーについて
・血液型が3回提出された事例について
全職員（参加数：535名/参加率70.5%）

くすりの勉強会

- （医師・看護師・薬剤師対象）
- 第1回 がん疼痛コントロール
 - 第2回 糖尿病とインスリン療法
 - 第3回 がん薬物療法
 - 第4回 感染症と薬物療法

人工呼吸器入門

- （研修医・看護師・臨床工学技士）
- ① 人工呼吸器の基礎
 - ② Mouth to Mouthと人工呼吸器
 - ③ 人工呼吸器のモード
 - ④ 当院にある人工呼吸器の操作
 - ⑤ アラームとその対応
 - ⑥ NPPVについて

看護部教育委員会の看護師医療安全研修 新人研修

- ① 手術室での静脈留置針の刺入実習
 - ② ICUでの輸液ポンプ
シリンジポンプ研修
 - ③ シミュレーション型危険予知実習
- 卒後2年目研修
- ① 2年目看護師が起こしやすい事故事例と安全対策
- 卒後3年目研修
- ① KYTとリスク感性について
KYT企画体験
- 卒後4年目研修
- ① 新人が起こしやすいインシデント
KYTの企画について

（医療安全管理係長 徳永 雄規）

2012
診療科紹介 (51)
外科



統括診療部長・地域医療連携室長
片渕 茂

外科全般・消化器外科(特に肝胆膵)
 肝胆膵非観血の治療・鏡視下手術

日本外科学会指導医・専門医・認定医
 日本消化器外科学会指導医・認定医
 日本消化器病学会専門医
 日本消化器内視鏡学会専門医
 日本がん治療認定医機構暫定教育医



臨床研究部長
芳賀 克夫

外科全般・消化器外科
 鏡視下手術

日本外科学会指導医・専門医・認定医
 日本消化器外科学会指導医・専門医・認定医
 日本消化器病学会専門医



外科部長
宮成 信友

外科全般・消化器外科
 胸部外科(特に食道)
 内分泌外科・鏡視下手術・救急医療

日本外科学会指導医・専門医・認定医
 日本消化器外科学会指導医・専門医・認定医
 日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医



医長
多森 靖洋

外科一般・消化器外科
 乳腺外科・内分泌外科・救急医療

日本外科学会専門医・認定医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医師
松本 克孝

外科一般・消化器外科
 乳腺外科・内分泌外科・救急医療

日本外科学会専門医・認定医



医師
富樫 陽彦

外科一般・消化器外科
 乳腺外科・内分泌外科・救急医療

日本外科学会専門医・認定医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医師
森田 圭介

外科一般・消化器外科
 鏡視下手術・救急医療

日本外科学会専門医・認定医
 日本消化器外科学会専門医
 日本内視鏡外科学会 技術認定医
 日本消化器外科学会・消化器癌外科治療認定



医師
木下 浩一

外科一般・消化器外科
 救急医療

日本外科学会専門医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医師
泉 大輔

外科一般・消化器外科
 救急医療



医師
富口 麻衣

外科一般・乳腺外科



医師
山口 充

外科一般

診療内容と特色

一般外科では、主に消化管、肝胆膵領域の癌、乳腺・内分泌疾患を中心とした診療を行っています。また、24時間断らない救急医療を提供しており多くの外科救急症例も治療しています。癌診療では、的確な診断、適切な治療、治療後のケアが重要と考え実践しています。

2009年9月の新病院移転に伴い、最新の医療設備が導入され、更に高度の診断治療が可能となりました。また、診療内容に加え、環境面からも満足していただける診療を提供することが可能となりました。入院時のほとんどの疾患にクリティカルパス(診療予定表)を適応し、入院時に治療方針を提示しています。毎朝7時45分から外科カンファレンスで前日の手術症例の検討と回診を行い、スタッフ全員が情報を共有しチーム医療を実践しています。

診療実績

2011年度の外科手術件数は974例であり、主な癌手術は食道癌手術8例、胃癌手術45例（胃全摘19、胃切除25、その他1）、大腸癌手術131例（結腸84、直腸47）、肝癌手術26例（肝切24、RFA2）、胆嚢癌手術1例、膵・胆管癌手術25例であり、胃・大腸癌手術では適応症例に積極的に鏡視下手術を導入し行っています。当院の特徴として「何時でも何でも断らない救急医療」を実施していることもあり、2011年度は癌手術以外に、腹膜炎や腸閉塞、その他腸切除手術123例、虫垂炎手術81例、胆石・総胆管結石手術139例（腹腔鏡下胆嚢摘出術115）、ヘルニア 102例 施行しています。

癌診療に関しては、手術、内視鏡治療、化学療法（抗癌剤治療）、放射線療法を組み合わせ集学的治療を行っています。食道癌治療では、リンパ節転移のない早期癌では内視鏡的切除を第一選択としています。リンパ節転移が予測される進行癌では術前化学療法を行い治療成績の向上を目指しています。食胃癌診療においてもリンパ節転移陽性症例では、エビデンスのあ

る術後補助化学療法を標準としています。高度進行胃癌に対しては術前化学療法を導入し治療成績向上を目指しています。大腸癌診療では切除不能・再発症例に対し分子標的薬を併用した最新の外来化学療法を行っています。胃癌・大腸癌手術も外科指導医、消化器外科指導医専門医が担当あるいは指導し安全で確実な手術を行っています。

消化器癌の化学療法も日本がん治療暫定教育医、認定医が担当、指導し行っています。また、外来化学療法センターも完備され化学療法クリティカルパスによるシステム化した安全な治療を提供しています。

医療設備

MRI、CT（128列 64列）、リニアック、消化管内視鏡、超音波内視鏡、胆道鏡、気管支鏡など各種

今後の目標・展望

癌に対し集学的治療を含めた積極的な治療を行い、治療成績の向上を目指すとともに、腹腔鏡手術等による低侵襲手術を目指します。

平成24年度看護師再チャレンジ研修を行いました

6月25日から29日までの5日間、『潜在看護師の再開発を行い、看護師への復帰の手がかりにする』という目的で看護師再チャレンジ研修を行いました。今年度は2名の参加があり、これで32名の方が本研修を修了されました。

今年度の参加者は臨床から離れて3年と10年で、年齢、経験もそれぞれでした。講義や演習を進める中で、「緊張しているが、久々に学生に戻った気持ちで、学ぶことが楽しくなってきた。」と話されていました。講義や演習の取り組みは積極的で、看護の新しい知識を吸収しようという姿勢や、基本的な看護技術を蘇えらせたいと何度も演習に取り組む姿が見られました。病棟実習は、6西・7西病棟で経験させていただきました。指導者から詳しく説明を受けたり、一緒に日常生活援助を行ったりする中で看護実践を思い出し、5日目の実習終了時には笑顔で帰校され、実習が充実したものであったことを表していました。

研修終了後の振り返りでは、実習でお世話になった病棟の副看護師長にも出席していただくことができま



開講式：
河野院長からの言葉



閉講式：修了証書授与

した。研修生からは病棟スタッフや学校職員などへの感謝の言葉と共に「一歩でも前進できるように今後も頑張っていこうと思います。」という意見が聞かれました。

今回の研修でご協力いただいた皆様に感謝し、次年度は更に充実した研修にすることができるよう取り組んでいきたいと思っています。

（看護学校教員 荒木美佐子）



フィジカルアセスメント・救急蘇生の演習



最近のトピックス

「顔面骨骨折における吸収性プレート (LactoSorb®) の使用について」



形成外科

万江 由希子

顔面は交通事故や転倒転落、スポーツや暴力など様々な原因によって、損傷を受ける機会が多く、受傷後の顔面の変形や瘢痕による醜形は心理的に大きな苦痛となります。さらに、皮膚・軟部組織の損傷だけでなく、顔面の骨折を伴う場合は、変形に加えて、知覚障害や開口障害、咬合不全、複視などの後遺症が残ることがあります。

顔面骨骨折が発症しやすい場所として、図1に示す前頭骨、鼻骨、眼窩、頬骨、上顎骨、下顎骨があります。治療法としては骨折で転位した骨を整復し、プレートで固定する方法が一般的です。現在顔面骨骨折整復に用いられる材料として、チタン製プレートが多く使用されています。しかし眼窩周囲など、皮下組織の少ない部位では触知性の問題点を認めます。また小児においては骨成長障害、発育期症例におけるプレートの頭蓋内への移行などの問題が指摘されています。これらの問題を解決するため、生体吸収性骨接合材の開発・研究が行われてきました。1995年に吸収性プレートの材料として、ポリL乳酸 (poly-L-lactic acid : PLLA)、ポリグリコール酸 (polyglycolic acid : PGA) の共重合体コポリマーからなるLactoSorb®が開発されました。この材料は生体内で加水分解によってPGAとPLLAのモノマーに分解され、さらに代謝を受けて二酸化炭素と水に分解されます。吸収性プレートの特徴は骨癒合が完了する数か月の期間は強度が保たれ、その後半年から1年かけて体内に吸収されます。そのため抜釘は不要で、小児においても金属製プレートのように埋入したり、成長障害を来すこともありません。一方吸収性プレートはX線やCTに描出されないため、

プレートの固定部位や固定状態が分からず、実際吸収されたかどうか分からないなどの問題点があります。また金属製プレートと比較すると費用が高価です。

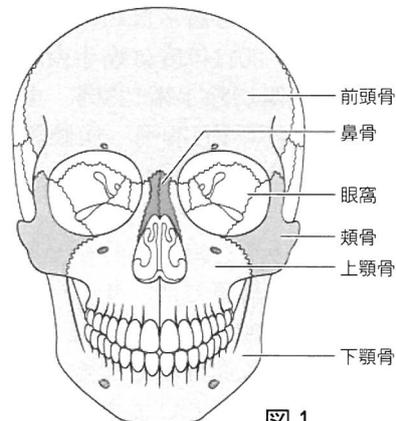


図1
顔面骨骨折が生じやすい部分

今回当科で前頭骨骨折に対し、生体吸収性プレート LactoSorb®を使用した症例についてご紹介致します。症例は21才男性で飲酒後に転倒し、顔面打撲により受傷されました。顔面CTにて前頭骨の粉碎骨折を認め、全身麻酔下に手術を行い、生体吸収性プレートを使用し骨折部の整復固定を行いました。術後半の経過観察を行い、前額部の形態は良好であり、プレートの触知などの合併症もなく、良好な結果を得ることができました。今後も多くの症例にて生体吸収性プレートの使用を検討したいと考えております。

<症例 21才男性 前頭骨粉碎骨折>

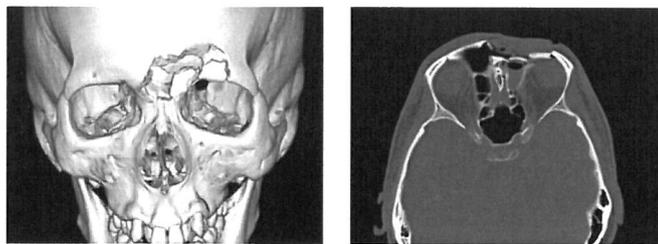


図2 : 受傷時CT

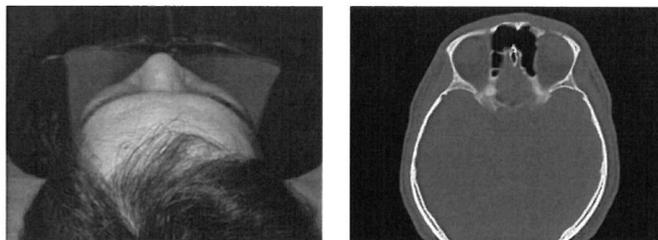


図3 : 術後半年

図4 : 術後半年CT

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ67回

自傷／自殺問題の急性期における精神科介入に関する研究

精神科 橋本 聡



【背景】

1998年以来、わが国の年間自殺者は3万人を超え深刻な社会問題となっています。また、自殺未遂者は少なくとも既遂者の10倍は存在するとされ、Cooper, Jらによると、自傷は自殺既遂を予見する最も強力な危険因子の一つです。自傷症例の急性期治療に関わることの多い高次救急医療機関が果たす役割は大きいといえます。

【方法】

2009年1月1日から2010年12月31日までの期間を対象とし、当院救急外来受診記録をもとに、明確に死ぬ意思を示さない自傷症例も含む、自傷／自殺問題で受診した症例（Deliberate Self-Harm；DSH）を後方視的に抽出し、精神科介入の程度と、DSHによって受診した後に再びDSHで当院救急外来を受診するまでの期間（企図-再企図間隔日数）との関係を調査しました。

【結果】

調査期間中、925例のDSHエピソードを認め、その75.5%が女性でした。全体の平均年齢は37.7歳（男性41.8歳、女性36.4歳）にて、20歳代・30歳代の若年女性が42.5%をしめました。精神科介入は生存退院となった症例で高くなりましたが（88.2%）、外来帰宅の症

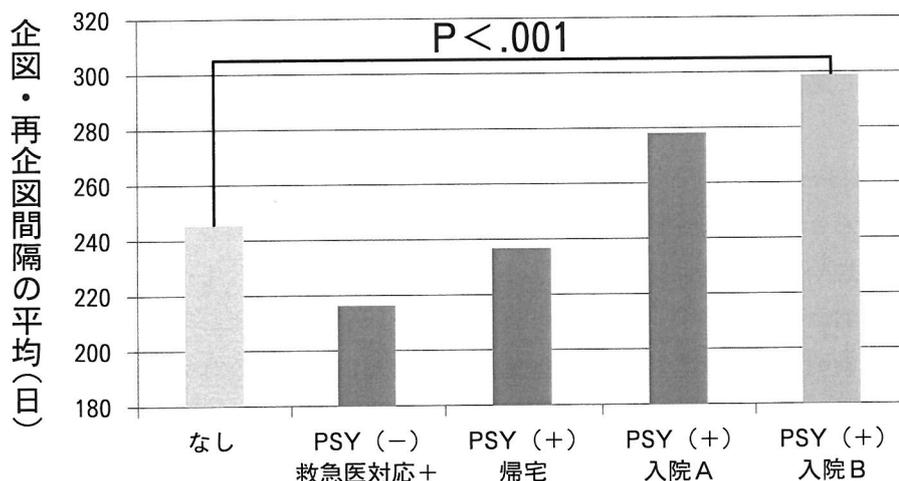
例で低くなりました（36.0%）。主要転帰である企図-再企図間隔（日数）は、介入なし群 平均245.5日、救急外来医の受診指導あり群 平均216.0日、精神科対応外来帰宅群 238.0日、入院後精神科面接2回以下群 279.7日、入院後精神科面接3回以上群 298.3日の結果で、「介入なし群」を対象とした一元配置分散分析（最小有意差法）にて有意な延長効果を確認できました（ $P<.001$ ）。

【考察】

今回調査で、DSH急性期における精神科介入の有効性を統計学的にも有意なものと確認できました。Hickey, Lら（2001）は、救急外来での精神症状評価が再自傷抑制に有効だと報告していますが、この結果はそれ以来の知見となります。専門スタッフが急性期に関与することで、入院に伴ってストレスフルイベントへ対処する仕切り直しが出来たこと、実際に援助が得られたことなどが考えられる要因です。この結果をもとに地域での精神保健医療の改善に更に尽力したいと思います。

【謝辞】

この研究は、熊本県精神科病院協会を通じて国の自殺対策基金の援助を受け、現在の土台を作ることが出来ました。この場を借りて深く感謝申し上げます。



- ※1) 救急医対応とは、救急医が診療情報提供書を作成して受診指導を行ったことを示す
- ※2) 入院Aとは、入院後の精神科医入面接が2回以下であることを示す
- ※3) 入院Bとは、入院後の精神科医介入面接が3回以上であることを示す

研修医レポート

臨床研修医

1年次 いりえ 入江 ともあき 友章



こんにちは。研修医1年目の入江友章と申します。今春長崎大学を卒業し、地元である熊本に帰県して参りました。4月の初期研修開始からはや3ヶ月経ち、熊本医療センターの先生方や看護師の皆様をはじめ、たくさんのスタッフの方々に日々ご迷惑をおかけしております。そのおかげと言ってはおかしいですが、毎日楽しく研修をさせていただき、充実した時間を過ごしているように思います。

研修最初の2か月は、同期の井先生とともに血液内科で研修させていただきました。電子カルテの中で迷うほど右も左も分からない私を、血液内科の先生や看護師の皆さんに暖かく指導していただきました。骨

髄移植の骨髓を受け取りに行かせていただいたり、骨髓採取や穿刺といった貴重な経験もさせていただきました。2か月という短い期間ではありましたが、医者の何たるかについて深く考えさせられ、これからの医師人生の礎となるような良い研修のスタートを切れたと思っております。

現在は救急科に研修の場を移して、目まぐるしい日々を過ごしております。救急外来を受診した患者さん一人一人に必要な診察、検査、初期治療は何かと考えながら、毎回勉強させていただいています。必要かつ研修医にもできる手技であれば、指導医の下でどんどん経験させていただける環境であり、とても有難く思っています。救急科も残り1か月となりましたが、より多くの経験を積めればと考えています。

研修生活もたまには辛い時がありますが、そんな時もたくさんの同期仲間や2年目の先生方に相談すると、共感や励ましの言葉をいただけて、心も楽になり、また頑張れる元気が湧いてきます。このような恵まれた環境の中で、日々、一歩でも前進するつもりで研修しています。まだまだ使い物にはなれませんが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

臨床研修医

1年次 いまむら 今村 りゅうじ 隆二



こんにちは。研修医1年目の今村隆二と申します。熊本大学を卒業し、4月から熊本医療センターで研修医生活が始まりました。3ヶ月が経ち、少しずつ仕事に慣れてきましたが、まだまだ皆さんにご迷惑をおかけしている毎日です。

私は、最初の2カ月は糖尿病・内分泌内科をローテートさせていただきました。先生方は皆さんとても教育熱心で、糖尿病の患者さんに対して、病態や血糖変動に合わせてのインスリンの使用法や糖尿病による合併症など様々なことを教えていただき大変勉強になりました。インスリン投与量を自分で判断し、先生と相談しながら血糖コントロールしました。他にもカプトプリル負荷試験や立位フロセミド負荷試験などの結果を

もとに原発性アルドステロン症の鑑別をする経験ができました。また、朝からの採血では看護師さんたちが丁寧に指導してくださったり、困っていないか気にかけてくださって安心して出来ました。現在は血液内科をローテートさせていただいています。指導医の先生にプロブレムリストの考え方やそれに対する評価・計画など治療の組み立て方や教えていただいています。骨髓穿刺やCVカテーテル留置など様々な手技を経験させていただいて充実した日々を過ごしております。また、患者さんの末梢血や骨髓の標本を顕微鏡で直接みて診断を考えるのがとても興味深く感じました。

当院ではモーニングセミナー、症例検討会、CVカテーテル実習など教育面が充実しております。今のうちに様々な症例や手技を経験し1つでも多くのことを身につけていきたいと思っております。

まだまだわからないことばかりで、諸先生方にはご迷惑をおかけすることも多いと思っておりますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

研修のご案内

第131回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成24年8月16日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「アルカリ性ケトosisを来した一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

橋本章子、齋藤雄一、今村雄二、信岡謙太郎、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

2. 「糖尿病の新しい治療薬（尿中ブドウ糖排泄促進薬）について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

橋本章子、齋藤雄一、今村雄二、信岡謙太郎、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線5705

第163回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成24年8月20日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討 「糖尿病・内分泌内科より症例報告」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

4. ミニレクチャー「パーキンソン病について」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

米持 康寛

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第120回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成24年8月22日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「顔面領域救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長

中島 健

国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長

上村 尚樹

国立病院機構熊本医療センター眼科部長

近藤 晶子

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

第16回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座1.5単位認定）

この度、第16回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

座長：庄嶋医院

院長 庄嶋 健 先生

【講演1】「当院におけるB型急性肝炎の最近の動向」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

田島 知明

【講演2】「B型肝炎の診断と治療-最近の話題」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長

杉 和洋

【講演3】「血液膠原病内科におけるB型肝炎再活性化の現状」

国立病院機構熊本医療センター血液・膠原病内科医長

井上 佳子

日時：平成24年8月27日（月）19：00～20：30

場所：国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

2012年

研修日程表

8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研修室	その他
1日 水			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
2日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「救急での胸部CT」 国立病院機構熊本医療センター放射線科 根岸 孝典		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
3日 金			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1
4日 土	13:00~15:30 第125回 看護卒後研修 「看護師に必要なリーダーシップとは —実践的リーダーシップ・トレーニング— 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター教授 吉田 道雄		
6日 月			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
7日 火			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C 1
8日 水			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
9日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「救急での頭部CT・MRI」 国立病院機構熊本医療センター放射線科 根岸 孝典		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
10日 金			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1
13日 月			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
14日 火			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~17:30 外科術前症例検討会 C 1 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C 1
15日 水			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
16日 木		19:00~20:45 第131回 三木会 (研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
17日 金		15:30~16:45 肝臓病教室 (研2) 「慢性肝炎について」	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1
18日 土	9:00~17:30 第1回 ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナー —ELNEC—J コアカリキュラム—		
19日 日	9:00~16:45 第1回 ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナー —ELNEC—J コアカリキュラム—		
20日 月	19:00~20:30 第163回 月曜会 (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
21日 火			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C 1
22日 水	18:30~20:00 第120回 救急症例検討会 「顔面領域救急疾患」		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
23日 木	20:00~21:30 第61回 医歯連携セミナー 「国立病院機構熊本医療センターと連携歯科医院との病診連携」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 他		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
24日 金			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:50 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1
25日 土	13:30~17:00 第85回 救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
27日 月			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
28日 火			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C 1
29日 水			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
30日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「災害医療」 国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長 原田 正公		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
31日 金			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター 読影室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)